

# 全海運所属組合の横顔

## 連載 第6回

# 九州地方海運組合連合会

## その8 壱岐地区海運組合

### 【壱岐地区海運組合の概要】

事務局 〒811-5136

長崎県壱岐市郷ノ浦町片原舩 253-7

電話 0920-47-0681 FAX 0920-47-4908

郷ノ浦港より徒歩 15分

理事長 田中 弁治 蛭子海運(有) 代表取締役

事務局長 江口 正弘

事務局員数 男子 1名 (事務局長含む)

女子 2名

組合員数 運送業専業者 1社

貸渡業専業者 16社

貸渡業運送業兼業者 3社

自家用船業者 1社

合計 21社

所属船腹量 一般貨物船 15隻 5,060 総トン 16,968 重量トン

一般貨物船資格付ガット船 2隻 998 総トン 3,090 重量トン

砂利採取運搬ガット船 1隻 446 総トン 1,290 重量トン

合計 6,504 総トン、21,348 重量トン



田中理事長 (左) と江口事務局長

### 【地区組合事情】

壱岐地区海運組合は、壱岐島の玄関郷ノ浦港から郷ノ浦大橋を渡って徒歩 15 分の場所で、壱岐海運協業組合と同居している。昭和 55 年 (1980) に建築の 2 階建て組合事務所である。土地は壱岐市からの借地だが、建物は組合員の出資により建設した。1 階が事務局、2 階が会議室になっている。

この地区では戦前から昭和 30 年代まで、対島を起点とした機帆船の航海がほとんどで、30 年代に入ると壱岐島の産業物である農作物、葉煙草、漁獲物、建築資材、海砂などを博多、北九州、長崎、阪神、対島を中心に運んでいる。組合員の 90% 近くが同島の印通寺港付近の石田町に集中していたことから結束が強い。当時は、対馬の木材や壱岐の石材など戦後復興の物資輸送需要があったことと、地場産業が漁業と農業だけで、立地的な条件からも海運業に積極的に進出する船主が多かった。昭和 40 年代の始め頃から組合リーダーの指導もあって、急速に銅



壱岐地区海運組合へのアクセス (Google 地図)

船化が進み北九州、長崎、阪神、東京地区のオペレーターへ用船に出すようになり、40年代末までに鋼船化は終わっている。

壱岐機帆船海運協業組合が設立されたのは昭和24年(1949)9月で、昭和38年(1963)9月の内航2法施行を機に壱岐海運協業組合に衣替えし、同時に協業組合の組合員により壱岐地区海運組合が設立された。元々、地元の事業者は自営運航が主体だったが、内航2法の施行により運送業資格が必要となり、協業組合が運送業者となって、組合員から用船する形をつくったもの。協業組合は内航3号運送事業者で、地区組合の組合員から199総トン型を用船し、299総トン型以上は関東、阪神地区の運送事業者が用船契約し運航している。

壱岐地区海運組合では古くから組合員の結束が強く、組合首脳が船の新造や売買、用船料などについて、経営改善の面からアドバイスして来た。しかし、これをよしとしない印通寺浦地区、久喜地区の組合員が昭和42年(1967)11月に離脱。印通寺港近くに壱岐汽船海運組合を設立(43年1月認可)して島内の海運組合が2つに分離し、今日に至っている。

壱岐地区海運組合の組合員の主な輸送貨物は砂、砂利、石、鋼材、雑貨、パルプ、木材セメントなどで、所属船全船がドライカーゴ。令和2年(2020)9月1日現在、3社が所有船を持たない休業中。また、北海道を主な稼働地域とする自家用砂利ガット船が1隻、組合所属船になっている。

地区組合事務局は、江口正弘事務局長と山内恵さん、小畑智美さんのプロパー3人で協業組合事務局も兼務しており、通常業務の全海運、運輸局関係全般の手続きの他、日頃乗船している組合員に代わって経営相談、新造船及び船舶の売買相談、資金調達、計画相談、用船料交渉、運賃及び用船料の調整事業、組合員の青色申告手続きなどの事業も担っている。配船や荷主開拓などの営業もサポートするユニークな組合なだけに、組合員の連帯は極めて密接で、常に島にいる組合員が組合事務所に集まり、情報交換している。こうした仕組みを作り上げた先駆者の貢献は大であり、全組合員が協力して組合の発展を期している。同地区でも船員の高齢化は深刻な問題のひとつ。一杯船主の9割が家族船で、船主も2代目から3代目に代替わりしており、船員の平均年齢が50歳台になっている。また、地元での若年船員供給が途絶えたことも、他の船どころと共通した悩みである。

地区組合の役員は理事7名、監事2名の計9名で、いずれも協業組合役員を兼務している。年1回の総会と年2回の理事会は、乗船している組合員も集まりやすい益暮に開催している。



郷ノ浦港



壱岐地区海運組合の建物(上)と事務局